



小砂子小学校



旧校舎 (昭和31年頃)



現校舎 (平成元年完成)

小砂子小学校は、明治17年9月に小砂子尋常小学校として創立し、当初は民家の倉庫などを仮校舎とし、地域の初等教育がスタートしました。

当時の在校生は9人で、現在のような整備された道路はまだなく、非常に急峻な坂の続く道を、子ども達は毎日歩いて通学していました。日々の生活の中で健脚が養われ、早川小学校までの遠足なども行っていたそうです。

小砂子の児童は、そのほとんどが漁師を親に持ち、学校も漁が繁忙期を迎えると親の手伝いが主となるため、休みになるなど、地域の実情とともに、歩んできた歴史があります。そのため、家族と地域、子ども達が学ぶ学校との結びつきも強く、明治44年に暴風で屋根が破損した際などは、地域の大人が総出で補修するなど、子ども達と学校は周囲に見守られて育ち、その児童達が大人になると、今度は担い手となって子ども達と地域を支えてきました。

しかし、昭和35年には68人いた在校生も、3年前に最後の卒業生を送りだしてから休校となり、これまでに667人の卒業生を送り出した小砂子小学校は、今年3月31日をもって正式に閉校となりました。



小砂子小学校 校歌

一、志はゆるかに 洋々として
幸といたいて 海原の
広きとおのが 心とし
学びの友よ

いざいそしまん

二、若草もゆる 丘の原
歳にはくむ 紐つし
強きにうるわしさ 心とし
学びの友よ

いざいそしまん

新たな学びの歩み

昨年12月には湯ノ岱小学校、今年3月には早川小学校にて、それぞれ閉校式が執り行われ、在校生や卒業生など多くの人々が集い、思い出深い故郷の学舎に別れを告げました。

この節目を迎えますが、時代の流れとともに交通の利便性も向上したこともあり、河北・滝沢小学校へと通学し、学びます。地域から小学校が無くなることは、言葉にならない寂しさを覚えますが、新たに児童が通う地域も、子ども達を変わず見守り続けています。



石崎奴の先頭に立つ早川小児童



橋名盤を設置する湯ノ岱小児童



湯ノ岱小学校閉校式



早川小学校閉校式

統 合